

新任のご挨拶

日本包装管理士会
中部支部支部長 北原圭介

この度2022年度から中部支部の支部長に就任しました、株式会社サンライトの北原と申します。まだまだ暑い日が続きますが、会員の皆様におかれましては日々健やかに過ごしてでしょうか。

私は包装管理士の24期会員として日本包装管理士会にお世話になり、それ以来パッケージデザインや販売什器を含む包装関連業務に携わり、業界の動きを見つめてきました。

昨今の経済状況では長引くコロナ禍の対策、ウクライナ情勢の影響からの価格高騰や資源不足など、世界的にも不安定な状況が続いています。包装業界にも迫りくる環境問題の目標達成をはじめ、それら社会情勢の難問を解決すべく大きな施策が必要となっております。

現在、各社が急務とするSDGs（持続可能な開発目標）に関わる目標達成の為にあらゆる角度からの施策を講じておりますが、包装業界にも資源の開発、循環、更に消費を促す販売促進から物流改善による効率化など、幅広い目線で新たな改革が迫られており、日本包装管理士会の動きにもこうした課題解決の為にスペシャリスト養成と、更なる会員同士の協力体制と連携が必要です。私もこうした課題に対して前向きに活動できるように努めて行きたいと考えております。

さて、中部支部の前支部長であるオカベカミコンの岡部様には5期（10年）にわたり物流を中心とする中部地区の経済発展と包装技術の継承に貢献していただき、更に技術者同士の交流にもご尽力いただき厚く御礼申し上げます。その中部支部の後継者として何が出来るとか。何が必要か。全国的にも物流関連が充実したこの地域から、販売促進を含む新たな動きを加えて人々の交流を重視した日本包装管理士会を盛り上げて行きたいと思っております。

今後ともご支援とご協力の程、よろしくお願いいたします。

《INDEX》

日本包装管理士会 中部支部長挨拶	1
総会決議報告	2
支部だより	5
本部だより	13



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.133

ipp
news

ipp news
2022年8月25日発行
編集人／道明 誠
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

日本包装管理士会 定時総会 会長挨拶

日本包装管理士会会長の山田孝志です。35期です。

新型コロナウイルスの感染防止は今年で3年目に入り、ワクチン接種も3回済まし、テレワークにも慣れてきた人も多いことと思います。一方で、通勤客の減少から今春のダイヤ改正で電車の本数が減り、車内の混雑が増えてきたというところも多いのではないのでしょうか。

まん延防止等重点措置も全国的に解除され、ゴールデンウィークではマスクをしながらとはいえ外出する人も増えて、国内的には少し明るい兆しが見えるように思いますが、ロシアによるウクライナ侵攻や円安による物価の上昇が日本経済に悪い影響を与えなければと思います。

昨年の活動状況を見ますと、理事会はZOOMを利用とリアル開催と両方で行われている様子ですが、見学会やセミナーは以前のような開催頻度には戻っていないようです。支部単位で行っていた新会員歓迎セミナーを、昨年はZOOMを使用して東京から全国一斉に配信して行いました。WEBでの開催では参加する人の場所を選ばないことから全国均質の会員サービスの提供をできるというメリットを今後も活用していきたいと思います。また、会員数がピーク時の半減以下になっている中で、IPP活動の在り方や以前からのままで運用していたHPの改善を検討していきたいと考えています。

新型コロナウイルスの変異株がオミクロン株の後にも新たに拡散されていることや全国の会員の参加の利便性を考慮して、本年の総会は事前に登録した会員は、視聴して質問できるWEB配信と会場に参加したい会員向けにリアル参加(集会形式)とのハイブリットで実施します。会員の意思の確認は、返信ハガキ、メール等の通信手段を使って行うことは従前どおりと致しました。これにより遠方の会員も総会にオンラインでライブ参加できるようになりますし、希望する人は会場に参加して直に意見交換することも可能としました。

今年も皆様のご理解とご協力をお願いして、総会の挨拶と致します。

第56回 定時総会に関するご報告

2022/07/23

理事(事務局担当) 井上伸也(5期)

第56回日本包装管理士会定時総会はウィズコロナ、アフターコロナの観点から、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施した上で、総会会場参加(対面方式)とWeb参加および事前配布の議案書を個別に内容の審議を行っていただき議決権行使用のハガキを使用して、郵送による投票をしていただく3方式の併用といたしました。

結果は、会場参加者が5名、Web参加者が8名で、投票はがきによる参加者は257名となり、会場参加は全員本部理事でしたが、次年度以降の3方式併用実施に向け課題の確認ができました。

議決権行使のハガキは6月20日までに投票(投函)していただくことをお願いし、6月23日午前中事務局到着分までを有効としました。また、会場参加者およびWeb参加者の投票は総会当日の行使を優先した集計としました。定款の第17条に定足数「(1) 総会は、出席者数の合計が全会員数の1/5以上の出席で成立する。(2) 書面、または代理人による表決者は出席したものとみなす。」の記載があり、本総会は規定に則り成立しました。結果は以下の通りです。

議決権行使ハガキが100%回収されなかったことは残念に思いますが、COVID-19感染の収束が見通せない中で3方式併用を受け入れていただいた会員各位には大変感謝いたしております。この方式を次年度以降の総会方式として会員各位への告知を進めます。

今回、総会会場およびWeb配信会場としては、「アットビジネスセンター池袋駅前別館803室」を使用いたしました。会場はリアル参加者を想定し余裕のある広さとして定員30名の部屋を準備し、Web参加者には会場保有の高速回線を使用して配信を行いました。



【回収された議決権行使はがきの詳細内容】

1. 会員数：590名
2. 投票数：270票 投票率＝45.8%
(内訳：有効票＝266票、無効票＝4票)
3. 有効票：266票
(有効票の内訳：議決権行使＝157票、委任票＝109票)
4. 議決権行使結果 (委任票109票は賛成票として集計)

1号議案	2021年度事業活動報告及び収支決算報告	⇒ 賛成266票で承認
2号議案	2021年度監査報告	⇒ 賛成266票で承認
3号議案	2022年度事業活動計画(案)及び収支予算(案)	⇒ 賛成266票で承認
4号議案	2022・2023年度役員承認	⇒ 賛成266票で承認



第53回 中部支部 定期総会（開催中止／書面審議）

2022年度の「第53回中部支部定期総会」は、新型コロナウイルス感染拡大の状況が収束しきっていない社会情勢から、会員各位の健康や安全面などを第一に考え、今年度も開催を中止させていただきました。

前年度同様に、中部支部運営委員会において事前に審議・承認をいただいた「第53回中部支部定期総会議案書」を中部支部会員各位に郵送し、「審議内容同意書」を返送いただく形での手続きを以て総会での審議に代え、多数の同意をもって各議案が承認されました。

なお、「第53回中部支部定期総会議案書」の承認をもって、5期10年にわたって中部支部をけん引された岡部智支部長が退任され、新たに北原圭介氏が支部長に就任されました。

【北原新支部長のご挨拶】

この度、中部支部の支部長に就任しました株式会社サンライトの北原圭介と申します。印刷会社の企画制作部門として長年、包装業務に携わってまいりました。支部長という大役を仰せつかるには、まことに微力でございますが、これまで中部支部の皆さんに支えられてここまでできました。そのお支えにお応えできる様に明るく積極的に支部を盛り上げて行きたいと思っておりますのでご支援、ご協力の程、よろしくお願い致します。



【2022年度の研究例会等開催予定】

2022年度の事業計画については、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大抑止の観点から、オンラインツールを活用した企画の拡充と公的な各種ガイドラインに沿った形での対面事業再開をベースとして計画を立てております。

昨年度から始まったJPI全支部共同のオンライン講演会（ウェビナー）として開催される「JPIWEBフォーラム」のうち、JPI中部支部で企画・運営を担当するウェビナーについては、引き続きIPP中部支部との共催事業とし、IPP中部支部の所属会員も無料でご参加いただけます。

また、「JPIWEBフォーラム」以外の事業（包装技術講習会・日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会・包装技術研究大会中部大会）についても、JPI・IPPの各中部支部共催での独自事業として企画を進め、現時点では従来の対面開催形式に戻しての開催を予定いたしておりますが、開催予定日までの情勢次第で昨年同様オンライン（ZOOMウェビナー）へ切り替えての開催も検討いたします。

引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見ながら、会員各位の健康や安全の確保を第一に、可能な限り会員の皆様へのサービス提供が行えるよう、支部長をはじめとする中部支部運営委員一同・事務局が一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第50回 関東支部 定時総会に関するご報告

関東支部第50回定時総会はCOVID-19感染防止を考慮して、Webによるリモート開催に致しました。議案書をホームページに掲載するとともに、e-mailに議案書を添付して会員宛に送信し、議決権行使用のハガキによる投票をお願いしました。

また、Web配信場所（アットビジネスセンター池袋別館の806号室）に総会に参加できる様にスペースを用意し、会員が参加できるようにして、今回はハイブリットで総会を行いました。議決権行使のハガキは6月15日午前中事務局到着分まで有効として集計いたしました。

議決権行使ハガキが100%回収されなかったことは残念ですが、議案審議に個別での審議という方法で行いました。

また、6月15日13時～14時の時間でWeb説明会として設定し、集会総会に替える意見交換場を設けました。皆様のご協力ありがとうございました。



回収された議決権行使はがきの結果（詳細な内容）は以下の通りです。

会員数241名 本日の出席者10名（会場参加及びWEBでの参加） 委任者数79名、合計89名で定款第17条に基づいて、関東支部登録会員数の1/5、すなわち49名以上で総会の要件を満たしておりますので総会は成立しました。

当日会場に参加、WEBで参加、ハガキによる議決権行使の詳細内容

1. 投票数（ハガキ投票及び会場での投票・当日WEBでの参加投票） 89票
2. 有効票（ハガキ投票及び会場での投票・当日WEBでの参加投票） 87票
 - ①議決権行使票および会場・WEBでの賛成票 87票（反対：0票）
ハガキでの賛成票42票＋当日参加による賛成票4票＋WEBでの参加による賛成票6票
＋委任票35票

1号議案	2021年度事業活動報告及び収支報告書	⇒承認されました
2号議案	2021年度監査報告	⇒承認されました
3号議案	2022年度事業活動計画（案）及び収支予算（案）	⇒承認されました
別表―1	2022年度役員	⇒承認されました
別表―2	2022年度 組織表	⇒承認されました

関西支部 定時総会

6月9日の定時総会では、
「2021年度活動実施報告」
「2021年度会計及び監査報告」
「2022年度活動計画」
「2022年度予算」
「2022年度役員選出」
について承認可決されました。



定時総会



左：桃川支部長
右：下茂副支部長

第45回 西日本支部 定時総会

第45回日本包装管理士会西日本支部定例総会は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催を取りやめ、昨年と同様に活動報告・決算報告を会員の皆様にEメールまたは郵便で送付し、承諾書を返送して頂くことに致しました。7月22日時点で承諾書の返送数が会員の過半数に達しました。この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

本年度の事業計画は、以下の通りです。

- ・役員会： 年4回
※コロナ感染症の状況により
オンライン形式にての開催を予定
- ・研究会、後援会、見学会、交流会等：
J P I 西日本支部と共催

役員は昨年度に引き続き担当制とし、以下の通り選任されました。

- ・支部長：藤生 廣来（総括）
- ・副支部長：末松 洋亮（I P Pニュース・企画等）
- ・副支部長：森永 浩史（J P I 事務局長・企画）
- ・事務局長：八田 彰（事務局）
- ・理事：中村 格勇（出納・企画等）

コロナ禍で講演会、見学会、交流会の開催が厳しい状態が続いていますが、インターネットを利用した情報発信を行うとともに、今年度もJ P I 様との協力関係のもと、できる限り充実した事業企画を目指していきます。

西日本支部だより

西日本支部 副支部長 末松洋亮（25期）

◆J P I WEBフォーラム福岡

- J P I 西日本支部との共催事業として
「J P I WEBフォーラム福岡」を行いました。
- ①講師：凸版印刷株式会社 南浩紀様
(日程) 2022年2月9日(水)
(テーマ) 国内初レトリート・ボイル・
電子レンジ対応デジタルプリント
 - ②講師：T O T O株式会社 桐野賢太郎様
(日程) 2022年3月3日(木)
(テーマ) お客様へ製品を大切に
お渡しするための活動について

◆2021年度J P I 東北支部・西日本支部共催の 包装研究講演会

J P I 東北支部、西日本支部との共催事業で2021年日本パッケージコンテスト入賞作品の発表会をZ O O Mウェビナーにて開催しました。

東北支部だより

東北支部支部長 鈴木 雅彦(23期)

早いもので2022年も半分が過ぎ、そろそろ夏休みの時期を迎えようとしています。しかし残念ながらまた第7波のコロナ感染拡大が急激な勢いで広がり、すこし日常が戻り始めた感にブレーキがかかっているようです。withコロナにどう対応するか、各企業模索しているが、東北の観光業界は心配です。

6月には管理士講座が対面で開校式が行われ、久しぶりに受講生が顔を合わせてのスタートを切りました。そして東北支部では3年ぶりに対面での総会を6月



14日、仙台で開催いたしました。

参加者は少なかったですが、久しぶりの対面で意見交換・情報交換が活発に行う事が出来ました。今後の支部活動についてや、近況報告、会員の若返りなどに話が盛り上がりました。特に支部の今後の活動については重要課題と、皆さんで共有致しました。一年の節目はこの様に顔を合わせての懇談は有意義だと感じました。もちろん、感染対策は十二分に行いました。

昨年はWebでのセミナーをJPIと、さらに他地区と共催で行い多くの参加者が視聴頂きました。特に2021日本パッケージングコンテストの中からの発表で、皆さんの興味を引いたと感じています。今年も研究発表大会のプログラムについては、JPIと協議を進めています。また管理士講座受講者による研究発表大会や新年名刺交換会についても、今年は開催の方向で検討を進めています。

しかしウクライナ問題、半導体不足、そしてコロナ感染と我々を取り巻く環境はまだ不透明です。そんな中、支部活動の活性化に今年は少し前に進めればと思っています。

このような状況の中こそ、IPP会員へ有益な情報発信活動を行う事が、支部の役割と思っています。東北支部は非常に広域な範囲に会員がおられどうしても集まるには、仙台となってしまう対面開催の難しさがありますが、是非若い会員方に支部の理事となって頂き、一緒に活動して頂きたいとお願ひしたいと思ひます。IPPの活動を通して是非、ネットワークを広めて頂き、自己研鑽に役立てて頂きたいと思っています。



つつむ君

つつむ君が
ツイッターで
情報発信をしています

[ツイッター](#)

日本包装管理士会

検索

*** E メールアドレス登録のお願い ***

活動によっては、会員の皆様にEメールで連絡を差し上げる機会が多くなっております。
会員の方には必須事項として、連絡用Eメールアドレスの登録をお願いいたしておりますが、
まだ未登録の方がおられます。
下記事務局宛Eメール送信で登録をしていただけるようお願いいたします。

e-mail : ipp@pk9.so-net.ne.jp

北海道支部だより

北海道支部長 會田慶太（47期）

5月31日に北海道支部の総会を終え、2022年度の活動が始まりました。残念ながら昨年度はコロナ禍により、包装懇話会、研究会、親睦会等例年実施させて頂いた行事すべてが中止となり、北海道支部としても活動が全くできなかった年でした。2022年度について、世の中が少しずつwithコロナ、アフターコロナに向け動き出したかと思った矢先に、コロナの第7波、そしてロシアによるウクライナ侵攻が勃発してしまい、再び不安の生活に突入してしまいました。とは言え、前回までと違うのは、コロナに関しては行動制限が今のところされていない事です。確かに感染力は強いですが、これまでのコロナとの戦いで養った防衛力を発揮し、本当の意味での、withコロナ、アフターコロナの世の中になればと強く願うばかりです。ロシア・ウクライナ問題について、北海道はロシアに近い事もあり、これまでは友好的な関係を保っており、その関係を基に成り立つ産業がございます。特に漁業関係者には影響が大きく、春のサケマス漁にも大きな遅れが生じました。コロナ・ウクライナ問題と2重苦の状況が当面続くとは思いますが、乗り越える力が北海道には有ると信じたいと思います。

さて、仕事の面では、北海道はご存じの通り、一次産業に経済を支えて頂いております。農作物、水産物が取れることで、その先の二次産業、三次産業が活気付きます。昨年は異常気象の影響を大きく受け、一次産業の方々が大変苦勞された年でしたが、本年は局地的な大雨等で被害は出ましたが、農産物に至っては統計上順調に推移しております。このまま天災等の被害が無く、実りの秋を迎える事が出来る様祈るばかりです。

コロナは依然猛威を振るっておりますが、北海道では待ちに待った夏本番がようやく訪れました。夜は肌寒い事もありますが、日中の温度は30℃超えの日もあり、ビールがおいしい季節となっております。今年は2年連続で中止となっていた、「よさこいソーラン祭り」が開催され、各地では花火大会も開催されております。人が動くことにより、徐々に明るさが戻ってきた感じが致します。北海道支部の活動も、手探りではありますが徐々に再開出来る様、取組みをして参りたいと考えております。

中部支部だより

中部支部

【2022年度包装設計の基礎講座】

2022年5月12日（木）・13日（金）の2日間、JPI中部支部との共催で「2022年度包装設計の基礎講座」を愛知県技術開発交流センターで開催いたしました。

依然としてコロナ禍の収束を見ないままの開催となってしまいましたが、昨年度に引き続いて感染予防に万全を期して準備を進め、参加者・講師各位・会場関係者のご協力のもと、全プログラムを無事に開講することが出来ました。



関西支部だより

関西支部 細田基則（13期）

新型コロナ禍も3年に渡り相変わらずの事業自粛が続いています。実施した活動は、12月17日の「見学会&セミナー」と6月9日の定時総会だけでした。

総会では、「2021年度活動実施報告」「2021年度会計及び監査報告」「2022年度活動計画」「2022年度予算」「2022年度役員選出」について承認可決されました。

見学会セミナーの内容と「会員(企業)の活躍紹介」を掲載します。

◆見学会&セミナーの開催 12月17日

①見学会 [山九\(株\) 神戸支店西神戸物流センター](#)

②セミナー「流通業界の現状と未来」

講師：センター長 川村孝文氏

◆会員（企業）の活躍紹介

誰かを喜ばせようと
毎日考えて
行動していれば
毎日が楽しい

忙しくなったら
「盛り上がってきました」
ピンチになったら
「面白いことが起きました」
と、言い換えてみる。

奈良県葛城市に在る[\(株\)高木包装](#)は月間300万㎡超の製函量を誇る若き女性社長が率いるボックスメーカーで、社長の思いが社内のあちこちに貼られています。今回は高木美香社長に寄稿をお願いし快く受けて頂きましたので紹介します。



川村講師



セミナー風景



講演風景



集合写真

包装の変化～時代の変化とともに歩む

株式会社高木包装
代表取締役社長 高木美香
(包装管理士)

創業者である父高木正年は、昭和30年に製縄業と梱包資材製造業として創業、昭和39年に段ボールケースの製造を開始する。高度成長期の日本の中で梱包資材としての木箱が、森林保護政策のために木箱から段ボールへと転換を余儀なくされ、いち早くその素材に着目したのだ。創業以来67年、包装資材において常に研鑽を積み、顧客のニーズに応え、積極的な設備投資を行い、同規模同業他社に先駆けて最新機器を導入し、ボックスメーカーとして邁進してきた。

そんな中で、わが社ではお客様の商品の付加価値を高めた提案をこの10年あまり力を入れている。クライアントのブランディングやセールスプロモーションにつながる段ボール製品の開発である。

いちご生産者のグループ「奈良いちごラボ」向けには、「古都華」「淡雪」といった奈良県産いちごのブランディングにつながるパッケージデザインを手がけ、宝石箱のようなギフトボックスや、金色に輝く三段重などを製作。「奈良いちごラボ」のパッケージで、4年連続日本パッケージングコンテストに入賞している。



2017年度受賞

2018年度受賞



2019年度受賞

2020年度受賞

また株式会社サカイ引越センターとのコラボでは、組み立てると「引越トラック」の形のパンフレットを入れる販促ツールや、引越に必須の大安仏減が分かりやすい段ボール製の組立カレンダーを提案して全国の営業所で販促ツールとして活用され、こちらも日本



2021年度受賞
株式会社
サカイ引越センター
の販促ツール

パッケージングコンテストで入賞をはたしている。

これらの積み重ねがお客様の目に留まり、お客様からこんなことができないかという案件が持ち込まれるようになる。単に「発注・納品」だけでなく、お客様とともにどんなことができるかを考えることで、面白そうだから任せてみようという事業の広がりが出来上がっていくのだ。

2年以上かけて大手電機メーカーとのコラボで開発した段ボール製の照明器具のセード「紙ライト」は、電機メーカーから持ち込まれたSDGs関連企画である。リサイクルの王様である段ボールが、照明のセードになる。しかも組み立て式だ。箱を開けると段ボールシートが入っていて、パーツを抜き取れるようになっており、組み立てるとランプセードになる。コロナ禍で巣ごもり需要が増える中、家族で組み立てる楽しさを味わってもらおうというものだ。



組立式の様々なランプセード：弊社会議室にて

これらの取り組みが、全体の売上に占める比率は数パーセントで、手間がかかる割に利益は少ない。しかし自社の基盤を守りつつ未来を創造するためには、こうした新しい時代に沿った取り組みが必要不可欠で、それが会社の未来につながると考える。

さらに何より大事にしたいことは、「好きなことを仕事にする」ということ。段ボールという素材は利用範囲が広く、どんな業界のどんな会社にもアプローチできる。加工しやすく、印刷もしやすくケース全体が

関東支部だより

50 KANTO

関東支部50周年記念セミナー企画

関東支部理事 野崎浩子 (38期)

関東支部では、2022年に50周年を迎えます。それを記念して、普段聞く事のできない、いろいろな方のセミナーを行っております。2月、4月、6月の計3回の記念セミナーを実施してきました。セミナーはいずれもオンラインで実施しました。その内容を紹介させていただきます。

【第1回】

テーマ：誰にでもできる、コミュニケーション
～オンライン時代に気づくこと～

講師：玉利かおるさん

1985年からテレビ朝日の情報番組「やじうまワイド」の司会をされ、「tonight」司会、他各局のキャスター、NHKのFM音楽番組「歌謡ジャーナル」を19年間担当されるなど、アナウンサーとして30年以上活躍されています。また、共立女子大学文芸学部「放送メディア概論」講師、ハリウッド美容専門学校専任講師、ハリウッド大学院大学准教授等ご活躍されています。



販促ツールTAKAGIMAN

時代に寄り添う100年企業を目指してさらなる歩みを始めなければならない。今やらねばならないことを、お客様、仕入れ先様、地域のみなさん、社員やその家族、会社を取りまくすべてと、チームとして力を合わせて考え、「DANボール」の可能性を追求していきたい。

IPP コミュニティ

日本包装管理士会

50 KANTO 関東支部50周年記念 セミナー企画 第一回



テーマ：明日から誰にでもできる、コミュニケーションのコツ
～オンライン時代に気づくこと～



日時：2022年2月17日(木) 13:30-15:00
セミナー形式：オンライン (ZOOM)
セミナー講師：玉利かおるさん

1985年からテレビ朝日の情報番組「やじうまワイド」の司会をされ、「tonight」司会、他各局のキャスター、NHKのFM音楽番組「歌謡ジャーナル」を19年間担当されるなど、アナウンサーとして30年以上活躍されています。また、共立女子大学文芸学部「放送メディア概論」講師、ハリウッド美容専門学校専任講師、ハリウッド大学院大学准教授等ご活躍されています。2021年3月「失敗しないオンラインでの伝え方」を出版

関東支部 50 周年記念 セミナー企画



内容：

オンライン時代に突入し、ビジネスや個人レベルでトークやプレゼンを行う機会が益々増えてきました。そのような中で、30年以上のメディアの仕事をされてきた玉利かおるさんに、「明日から誰にでもできるコミュニケーションのコツ」として、リアルでもオンラインでも共通する伝え方の極意と双方向でのコミュニケーションの秘訣などをお話して頂きました。まず、声と話しかたが最も重要であることを教えて頂きました。オンラインでは見た目5割、声・話し方5割、一方、リアルでは見た目8割、声・話し方2割のため、オンラインでは特に自分の声のブランディングをして表現力をつけるということで格段に伝わり方が変わってくるそうです。またトレーニング次第で聞きやすい声、通る声にすることができるということも教えて頂きました。これは、オンラインでもリアルでも言えることだと思いましたが、「重要なところはゆっくり話す」ということもなるほどと思いました。さらに、ひとりしゃべりの克服法や簡単に上手に話せるコツなどの習得など、リアルとオンラインのハイブリッドの時代に役立つ内容を約60分お話し頂き、その後の30分の質問タイムはとても盛り上がりしました。

【第2回】

テーマ：人生100年時代のライフキャリアデザイン
～これからの働き方・生き方を考える～

講師：宮城まり子さん

慶應義塾大学文学部心理学部卒業、早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了。臨床心理士として精神科、心療内科、小児科にて勤務。立正大学心理学部臨床心理学科教授、法政大学キャリアデザイン学部教授、同大学院教授を経て、現在はキャリア心理学研究所代表。主著『キャリアカウンセリング』『聴く技術』『リーダーの仕事力を高める7つの心理学』他多数。現在は企業のキャリア相談室スーパーバイザー、キャリア研修、キャリアコンサルタント養成、メンタルとキャリアの統合的支援に広く関わっている。

内容：

今や5年、10年はあっという間に過ぎ、気がつけば自分の年齢を意識せざるを得ない時を迎えます。これから、残りの人生を「どのように働き、生きるのか」、ただ漠然と考えているだけではダメで、定年後も含めた長期的な視点から今後の「ライフキャリアデザイン」（設計図）をもつことが必要であることをお話し頂きました。50歳はまだほんの「人生の正午」にすぎず、だれにとっても1回しかない人生において、「何をしたいのか、どうありたいのか」、を考え、たとえ仮でもいいので今後の方向性を考え、将来に備えて少しずつ行動に移すことが必要であること、行動しなくては目的は達成されないこと、などを語って頂き、「これからの働き方、生き方について」考えるきっかけとなった方もいたと思います。宮城先生は最後に、「いかに生きるか。いかに愛するか。いかに死ぬか」が人生の3つのテーマとお話しされ、「今日は人生の中で一番若い日、生涯育自を大切に」と締めくくりました。これからのライフキャリアデザインを考え、どう行動するを考えるきっかけとなった、とても有意義なセミナーでした。

IPP コミュニティ

日本包装管理士会

50

KANTO | 関東支部 50 周年記念
セミナー企画 第二回



テーマ：人生 100 年時代のライフキャリアデザイン
～これからの働き方・生き方を考える～

日時：2022年4月22日(金) 13:30-15:00
セミナー形式：オンライン (Zoom)
セミナー講師：キャリア心理学研究所 代表 臨床心理士
宮城まり子さん



【プロフィール】 慶應義塾大学文学部心理学部卒業、早稲田大学大学院心理学専攻修士課程修了、臨床心理士として精神科、心療内科、小児科にて勤務。立正大学心理学部教授、法政大学キャリアデザイン学部教授、同大学院教授を経て、現在はキャリア心理学研究所代表。主著『キャリアカウンセリング』『聴く技術』『7つの心理学』他多数。現在は企業のキャリア相談室スーパーバイザー、キャリア研修、キャリアコンサルタント養成、メンタルとキャリアの統合的支援に広く関わっている。

関東支部 50周年記念事前講演会

第3回講演会を開催

関東支部長・古平篤（25期）

関東支部主催の50周年記念事前講演会は、2022年6月15日（水）14:30～16:00まで開催しました。

今回は、関東支部総会の後で行なわれ、講演はリアルとWEBのハイブリッド方式で行われ、リアルサイトは関東支部と同じ場所、池袋のアットビジネスセンター 池袋駅前 別館 806号室で行い、WEBはその場所からZOOMを使用して発信しました。

講演は、[レンゴー株式会社](#) 開発本部 包装技術第一部 部長 石川 淳生さんにお越し、当会場までご足労頂きました。



会場には大きなモニターを用意して、会場の参加者の皆さんも講演が良くわかるように工夫を致しました。段ボール包装設計者から見た『50/113』の軌跡の講演をいただきました。

日本ではじめて段ボールが作られてから113年になります。日本包装管理士会 関東支部発足50年を迎えるにあたり、1972年（昭和47年）からの段ボールの変遷を段ボール包装設計者の視点で講演会を行いました。

最初の10年間では、第一次オイルショックを乗り越えながら、段ボール包装設計という存在感が増していく状況を伝えました。また、宅配輸送到民間企業が本格参入し、輸送品質の向上が認められて郵便小包の取扱数を抜くという出来事がありました。

1982年からの10年間は、段ボール設計や試作にCAD・CAMが導入され始め、コンピュータ化が進みました。北海道、本州、四国、九州のすべてがつな

がったのもこの時期で輸送環境が大きく変わりました。



1992年からの10年間は、処分の容易な紙製緩衝材が注目され、電気製品を中心に様々な段ボール製緩衝材が開発されました。また、青果物では、金属針やテープを使わず封かんできるノンステープル段ボール箱も流行しました。

2002年からの10年間は、ユニバーサルデザインの導入、二酸化炭素排出量の表示など、人や環境に配慮した段ボール包装が注目されました。

2012年からの10年間は、段ボール統計にも通販宅配分野が新たに追加され、通販用ケースが伸長しました。人手不足による包装自動化に伴い、包装容積を削減する包装システムが続々と導入されています。国産機も開発されていますが、海外機優勢の現状を踏まえ、日本企業に頑張ってもらいたいと期待します。

講演終了後、たくさんの質疑応答が行われ、定刻の16時に終了しました。

この記事は石川さんのご協力を頂き作成いたしました。ありがとうございました。



IPP写真研究会 活動報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲(23期)

当研究会は写真を通じて楽しさを共有する親睦の集まりです。関東支部からの活動支援金と年会費で運営しています。2021年11月に横浜山手234番館ギャラリーでリアルでの写真展を開いた後、新型コロナ流行や撮影会が雨天で中止となる等で研究会メンバー全員対象の活動ができずにあります。

一方、2022年10月の[横浜山手234番館](#)ギャラリーの使用枠を確保し、恒例の写真展に向け、メンバーが作品準備を始めたところです。

作品作りの支援として、8月と9月に組み写真の写真選び、現像・トリミングなどの仕上げ等のアドバイスを講師から個別にe-mailで受ける機会を設け、作品をより良いものにしていきます。

東京パックと開催日が重なりますが、ハロウィンの飾り付けが始まった横浜元町・山手へおいで願えればと思います。

『第17回楽しい写真展』 【開催予定】

場所 横浜山手234番館ギャラリー
元町中華街駅下車、外人墓地斜め向かい

会期 2022年10月14日(金)12時から
17日(月)15時まで
山手234番館の会館時間は
9時30分から17時まで

内容 会員の組み写真をメインにA3サイズの作品を展示します。

お願い

コロナ流行の状況により、山手234番館の閉館があり得ます。ネットで「山手234番館」のホームページを検索し、開館を確認の上おいで願います。

本部だより

本部広報担当 道明 誠 (23期)

IPPラウンジについて

昨年(2021年10月)、IPP本部では新たな組織として[ippニュース編集委員会](#)を立ち上げました。当委員会では、全国の会員同士が互いに情報交換できるプラットフォームを構築するために、様々なアイデアや企画を出し合ってきました。議論した内容はIPPのホームページにも公開しておりますので、ご興味のある方は[そちらを](#)ご覧ください。

委員会から出されたアイデアやコメントを考察した結果、新企画としてリアルな活動がしにくいコロナ禍やリアルイベントに参加しにくい地域にお住まいの方でも、共に繋がり情報交換が行えるという理想をかげ、リモート勉強会(名称: [IPPラウンジ](#))を企画することといたしました。

第1回目の勉強会(2022年3月)のテーマは、「プラスチック資源循環促進法」について、法令ならびに省庁発行の解説書を読み込み、基礎的知識を身につけることとしました。まだ試行段階で参加人数も少なかったですが、2022年度は頻繁にIPPラウンジを開



催していきたいと考えています。肩の力を抜いた勉強会を目指しておりますので、ぜひ会員の皆様もお気軽に参加を検討してみてくださいませ。

2022年度は、これらの勉強会で使った資料について、WEBを使ったアーカイブを作成し、会員のどなたでも閲覧可能な仕組みを構築したいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

50周年記念セミナーの今後の予定は10月にセミナーを行います。その後2023年の4月末までにあと2回程度行う予定で計画を立てています。詳しい内容はIPPのホームページと関東支部会員宛メールにてご案内させていただきます。

また、長らく休止しておりました「見学会」ですが、2022年11月と2023年3月の予定で計画しております。できればリアルで行いたいのですが、コロナの状況によってはWEBを使用した見学会も検討しています。こちら詳しい内容はIPPのホームページ等でご案内いたします。また、[TOKYO PACK](#)は2022年10月12日～14日まで開催予定です。包装管理士会としても出展予定ですので、会場まで足をお運びください。

今年前半はグローバル環境で大きな事件や経済環境の変化がありました。また日本国内におきましても選挙の最中に要人暗殺というショッキングな事件がありました。私たちは有事の時代に身を置くことになりましたが、自己の精神はいつも平事を保っておきたいものです。日本包装管理士会では、コロナの影響でリモートを使った活動が多くなってきました。「やっぱりリモートは、やだよね。」といった声も聞きますが、逆に今までリアルに参加できなかった全国の会員にとっては、新しい機会が舞い込んできました。ぜひIPPのハイブリット活動に参加して交流を深めていただくと気持ちも明るくなってくるのではないのでしょうか。有事の時代ですがお互い頑張って参りましょう。みなさんのご意見をお待ちしております。下記メールアドレスまで
道明 誠 (23期)

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
<https://www.ippj.net/>

■本部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1-東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL: 03-3543-9250 FAX: 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	TEL: 011-241-8591 FAX: 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社東北ウエノ内	TEL: 0191-21-4531 FAX: 0191-21-5381
■関東支部	〒115-0051	東京都北区浮間1-7-17 *古平 篤 関東支部長宅	ipp.kanto.pack.50@gmail.com
■中部支部	〒460-0003	名古屋市中区錦3-5-21 錦HOTELビル3D 日本包装技術協会内	TEL: 052-228-2930 FAX: 052-228-2980
■関西支部	〒550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	携帯: 090-4305-3906 (桃川) FAX: 06-6584-8986
■西日本支部	〒849-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西6-3-2 株式会社サガシキ内	携帯: 090-9876-7832

..... Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 Fax:03-3543-8970 ☎:03-3543-9250

フリガナ	会員番号	番
氏名	届出日	令和 年 月 日
会社	社名 所属 住所 〒 TEL E-mail	FAX
自宅	住所 〒 TEL E-mail	FAX